

サンエーがLA発「プラネット・ブルー」を獲得

TSIホールディングスは4日、グループ傘下のサンエー・インターナショナルが、米国リン・スー・チン社（以下、LSC）との合併により、プラネット・ブルー ジャパン（仮称）を設立すると発表した。LSCは、米国西海岸でセレクトショップ「プラネット・ブルー」を6店舗展開しており、新会社は、日本における「プラネット・ブルー」の事業を運営する。12月に設立予定で、出資比率はサンエー・インターナショナル80%、LSC20%となる。

「プラネット・ブルー」は、女性オーナー・デザイナー、リン・スー・チンが1995年にスタートしたライフスタイル提案型セレクトショップで、現在マリブやビバリー・ヒルズなどLAに6店舗展開している。ウイメンズ・アパレルと雑貨のほか、ホームファッションを扱い、一部ではカフェも併設。“セレブご用達のマリブ・スタイル”のイメージを確立しながら、「ロンハー

マン」や「フレッド・シーガル」と比べて、価格帯を抑えている点が特徴だ。アパレルは、インポートと3ラインからなるオリジナルブランドで構成している。

日本では、2013年春に都内および都内近郊に165㎡規模のショップを2店、出店する予定で、eコマースにも注力する。ファッション分野は、米国で展開するセレクトとオリジナルの商品に加え、日本限定のアパレルラインも立ち上げる。ライフスタイル分野は、ルームウェアやテーブルウェア、香りの演出に力を入れて、ファッション分野と融合したミックス・マーチャン・ダイジングを目指す。

「4年ほど前にLAで一目ぼれしてから、提携のタイミングを見計らっていた。特徴を一言で言うなら“癒やし”。ハワイ出身でマリブ育ちのリン自身が体現している“スローなライフスタイル”が、支持されている。米国の店舗では、ライフスタイル分野の

売り上げ構成比が3~4割と高く、日本でもアパレル半分、ライフスタイル半分で構成する予定だ」(廣瀬啓二サンエー・インターナショナル専務営業本部長)。サンエー・インターナショナルは5月12日から、「フリーズ・ショップ」内で「プラネット・ブルー」の商品を扱っており、別注企画や日本限定企画なども販売している。



1.マリブの「プラネット・ブルー」 2.店内の様子 3.ビバリー・ヒルズ店の外観